

オープンスタンダードにもとづいた クラウドベースの電子署名で、 顧客満足度とコンプライアンスを担保

最も厳格な電子サイン関連法に準拠しながら、いつでもどこでも署名を可能に

世界で使われているモバイルデバイスは数十億台を超え、サイバー攻撃の脅威がこれまでになく高まっています。クラウドを利用した、利便性と安全性を兼ね備えた文書の署名と管理に対する需要が拡大しています。

一方、欧州連合の eIDAS やライフサイエンス業界の 21 CFR Part 11 などの規制は、署名者の同一性と署名する文書の真正性を検証するための厳格なコンプライアンス要件を定めています。このような要件に対処するため、アドビと [Cloud Signature Consortium \(CSC\)](#) に参加しているリーダー各社は、モバイルデバイスやwebからのリモート署名を実現する、クラウドベースの電子署名の新しいオープンスタンダード化を推進しています。アドビはこの標準規格に準拠したソリューションを提供する世界初のグローバルベンダーです。適格トラストサービスプロバイダー (TSP) が発行する標準規格にもとづくデジタルIDを使用すれば、世界中でいつでもどこでもコンプライアンスに準拠した方法で署名できるようになります。

電子署名は最高レベルのコンプライアンスに準拠

[電子サイン](#) は世界中の先進諸国で信頼され、法的な有効性と拘束力を有していますが、地域、業界、対象案件により要件が異なる場合があります。ほとんどの場合、電子メールアドレスやソーシャルID、電話認証などの一般的な本人認証方法で、安全な電子サインプロセスの要件を満たします。しかし、一部の取引は最高レベルの保証のみに限定されることがあり、そのような場合に使用するのが [電子署名](#) です。

電子署名は最も高度で安全な文書への署名方法で、ローン申請書や、医療関係の各種書式、新薬申請書などの、高価値、高リスク、または厳格に規制されたビジネスプロセスに使用されます。EU では手書き署名と同等の法的効力が自動的に与えられるのは、電子サインの中でも電子署名の形式に限られます。その場合、署名プロセスが特定の基準に準拠している必要があります。

Adobe Sign、Adobe Document Cloud ソリューション

年間で80億件の取引をおこなうアドビは、安全なデジタル文書ソリューションと標準規格にもとづく電子サインのグローバルリーダーです。

- PDFをはじめとする標準規格を20年以上主導
- 200社以上のトラストサービスプロバイダー (TSP) が参加する世界最高峰のデジタルIDエコシステム
- あらゆるデバイスで容易に送信、安全に署名
- Microsoft SharePoint、Salesforce、Workday など、最高水準の統合が可能
- 高度なワークフロー機能
- 最高レベルのセキュリティとコンプライアンス
- 最高水準のエンタープライズサポート
- グローバル規模での抜群の信頼性

最高レベルのコンプライアンスに準拠する電子署名とは：

- 各署名者を一意に識別 — 適格 TSP が発行した証明書によるデジタル ID を使用
- 署名中に署名者の同一性を再確認 — 個人識別番号に加えて、スマートカードや USB トークン、クラウドベースのハードウェアセキュリティモジュール (HSM) などの安全な署名作成デバイスを使用
- 暗号化 — 署名者と文書を紐付け、不正改ざんシールで整合性を確保
- 長期検証可能 — 文書に署名されてから長期間経過した後も真正性の確認が可能

現行の電子署名はデスクトップPC向けの設計

現在はデスクトップPC向けのソリューションと標準規格にもとづき、毎年数十億の署名処理がおこなわれています。アドビは、PDFで電子署名初のオープンスタードを主導し、業界他社および ETSI (European Telecommunications Standards Institute) と協力して、PADES (PDF Advanced Electronic Signatures) として知られる国際基準を策定しました。公的および業界ガイドライン、企業コンプライアンスに準拠するため、[Adobe Approved Trust List \(AATL\)](#) や [European Union Trusted Lists \(EUTL\)](#) などの信頼済みリストに掲載されたプロバイダーが提供するデジタルIDを使用します。現在、これらのリストには、広範なコンプライアンス要件に対応する200以上のプロバイダーが掲載されています。[Adobe Acrobat](#) と [Adobe Sign](#) を含む [Adobe Document Cloud](#) ソリューションは、それらのすべてに対応しています。

最高レベルのコンプライアンスに準拠するには、通常、署名者に個人識別番号のほかに、スマートカードまたはUSBトークンに保存されたデジタルIDが付与され、文書に署名する際にそれをデスクトップPCに接続して使用します。このようなソリューションはコンプライアンス要件を満たしますが、デスクトップPCでなければおこなえないという制約があります。

高度な署名者の認証が可能

保証レベルの高い電子署名が有効な事例の一部をご紹介します。

- 医師 — 処方箋と処置の承認
- 融資担当者 — 高額ローンの承認
- 行政機関の検査官 — 安全状況の報告
- 銀行 — 顧客が契約書に署名できるようにデジタルIDを発行
- 人事部マネージャー — 従業員の入社、退職手続き
- 行政機関職員 — 給付金申請の承認
- 企業 — ライセンス申請、許可申請
- ベンダー — 高い品質と安全性を備えた競争入札に参加

モバイルワークを可能にするクラウド署名

今日、モバイルとwebアプリの急増に対応するため、新しい標準規格の策定が求められています。そこでアドビは再び、グローバルベンダーとして初めて、クラウドベースのオープンスタードを主導しています。CSCに参加する業界の専門家と共に、webとモバイルに特化した新たな電子署名のオープンスタードの仕様を策定しました。

最高レベルのコンプライアンス要件に準拠するため、署名者は、適格プロバイダーが提供するクラウド上に安全に格納されたデジタルIDを保持することになります。署名プロセスでは、署名者は個人識別番号を入力し、さらに別の安全な署名作成方法を使用して本人の同一性を再確認します。例えば、モバイルワンタイムパスワード (OTP) をモバイルアプリに送信するなどの方法があります。

アドビでは、実際にご利用いただけるソリューションも提供しています。トラストプロバイダーは世界中で急増しており、CSC仕様のデジタルIDを利用した、業界をリードする電子サインソリューションをあらゆる地域の企業のお客様にご利用いただけるようになってきています。これらのプロバイダーはAATLおよびEUTLにより適格と認定されており、既存の証明書およびデジタルIDソリューションも更新済みで、新しいCSC規格に準拠しています。このようなソリューションを使用すれば、従業員、顧客、パートナーは、コンプライアンスを維持しながら、いつでもどこでも、どのデバイスからでも署名がおこなえます。

ビジネスの将来性を見据えたオープンスタード

オープンスタードを採用することで、互換性の問題とデプロイメントの制約がなくなるため、場所を問わずあらゆるアプリケーションとデバイス間で、一貫性と相互運用性の高いサービスを提供できます。ひとつの拠点のひとつのプロジェクトという小規模から始め、複数部門へ、そして複数拠点へと、国内はもちろん国際的に容易に拡大できます。

電子サインソリューションの中には、特定のデジタルIDしか選択できず、使用可能なアプリケーションが限定されてしまう、または用途やコンプライアンス要件に応じて独自に開発が必要になるものがあります。しかし、アドビのソリューションはそのようなことはありません。時間の経過と共に要件が変化しても柔軟に拡張できるため、確信をもってエンドツーエンドのデジタル文書プロセスを構築できます。

アドビが参画するCloud Signature Consortiumで開発した新しいオープンスタンダードにより、最高レベルのコンプライアンスに準拠した優れた顧客体験を提供できます。



外出先でも署名

デスクトップPCだけでなく、web ブラウザーやモバイルデバイスでも文書に署名できます。



ダウンロード不要

署名のために文書をダウンロードする必要はありません。



証明書の所有権はシンプル

証明書は、利用者が選択したクラウドサービスプロバイダーがクラウド内で管理します。



署名者も、依頼者も容易に利用可能

スマートカード、USB トークン、各種ドライバーのインストール、専用ソフトウェアは不要になります。



CLOUD SIGNATURE CONSORTIUM

2021年現在、クラウド署名コンソーシアム (CSC : Cloud Signature Consortium) が策定した、新たなオープンスタンダードに準拠したデジタルIDソリューションを提供するトラストサービスプロバイダーとテクノロジープロバイダー：

- BankID – スウェーデン
- D-Trust (Bundesdruckerei 子会社)
- Digicert + Quovadis
- Digidentity
- FTN Finland
- GlobalSign
- InfoCert
- Intesi Group
- Itsme

Worldline

[詳細 >](#)

用できます。アドビにはデジタルIDを発行するトラストプロバイダーとの世界最大規模のエコシステムがあるため、国内外の電子サイン関連法、業界規制に準拠した様々なプロセスを構築できます。また、安全な署名作成デバイスのための広範なサポートも提供しており、ほとんどのスマートカードやUSB トークンを使用して、クラウドでも署名プロセスを実行できます。

アドビ製品をご利用いただければ、デジタルワークフローのセキュリティを第一に、シンプルな操作で確実にコンプライアンスを担保できます。Fortune 100企業の半数以上、官公庁、医療機関、金融機関に採用され、様々な部門や業務プロセスの署名と承認プロセスの自動化を支えています。アドビは、使いやすく、デプロイが容易で、最上級の顧客体験を提供できる、オープンスタンダードにもとづいたソリューションを展開することを使命として取り組んでいます。

さらに詳しく

Adobe Sign の利点について詳しくは、アドビの担当営業にお問い合わせください。

次の関連リソースからより詳しい内容を確認できます。

- [電子サインと電子署名で業務プロセスを変革](#)
- [電子サイン関連法グローバルガイド：法律とその強制力に関する国別のまとめ](#)
- [効果的な電子サインポリシーの策定](#)

トラストサービスプロバイダーですか？どうぞご参加ください。
[アドビクラウド署名パートナープログラムについて](#)

詳細情報

<https://www.adobe.com/go/adobesign-jp>

アドビ製品は管理が簡単

アドビは、安全なデジタル文書ソリューションと標準規格にもとづく電子サインのグローバルリーダーです。Adobe Document Cloud は、具体的なコンプライアンス、業界、リスク特性に適合する署名プロセスを柔軟に構築できます。標準的な電子サイン、デスクトップPCまたはクラウドベースの保証レベルの高い電子署名、または両者を組み合わせて利

